

夏休みの宿題をSDGsにしよう！を開催しました

親子で学ぶ、生ごみが野菜に還るまでの一日

日時 2026年8月8日（土）11:00～14:30

会場 当社敷地内・ソラカフェ／隣接の畑

共催 ソラカフェ

参加 小学生・中学生のお子さまとご家族

給食の残りや野菜くずは、捨てたあとどうなるのか。目に見えないこの問いを、レタスの外葉一枚から追いかける一日をつくりました。生ごみ処理機に入れた葉が数時間で分解液に変わり、その液が畑にまかれて次の野菜を育てていく。参加した子どもたちが、その循環を自分の目で確かめ、自由研究としてまとめました。

当日の流れ

- | | | | |
|--------------|---|--------------|--|
| 11:00 | レタスの外葉に名前を書く
捨てられるはずの外葉に油性ペンで名前を記入。数時間後にどうなるかを追いかけるための目印です。 | 11:30 | 生ごみ処理機「シンクピア」へ投入
微生物が分解するしくみを学び、自分の手で投入。「本当に消えるの？」の答えは3時間後に。 |
| 12:00 | ソラカフェでランチ
分解液を培養液として育てた野菜を使ったランチ。循環をいちばん実感してもらえた時間でした。 | 13:00 | 温暖化を学び、自由研究をまとめる
2050年カーボンニュートラルの映像でCO ₂ と食品ロスの関係を解説。仮説→実験→考察の順に記録。 |
| 14:00 | 分解を確認し、分解液を畑にまく
名前を書いた葉は跡形もなく分解。取り出した液を畑へ運び、育てている野菜の株元にまきました。 | 14:30 | 認定証の授与・終了
研究をやりきった参加者の皆さまに、代表取締役社長より認定証をお渡ししました。 |

写真で見る一日



2050年の天気予報を視聴中。未来の夏を、ニュース番組の形で見てみます。



学んだことを仮説と考察の形に書き起こします。



投入した葉は分解できているかな？ふたを開けて確認します。



自分で入れた葉が、形を変えて畑に戻りました。

この一日でわかったこと

生ごみは「なくなる」のではなく「変わる」

投入した葉は消えたのではなく、液体という別の形になって畑に戻りました。

ごみを減らすことは、CO₂を減らすこと

水分の多い生ごみは燃やすのに多くのエネルギーが必要。減らせば排出も減ります。

循環は台所からはじめられる

食べ残しを減らす・水を切る・分けて出す。毎日の行動が同じ方向を向いています。

主催者より

「環境をアップデートする。」を掲げる当社にとって、事業の現場をそのまま学びの場として開くことは以前からの願いでした。今回は、質問のひとつひとつに向き合い、装置の中をのぞき込み、畑まで一緒に歩く時間を持つことができました。子どもたちが「捨てる」の先を自分の目で確かめてくれたことが、何よりの成果です。ご一緒いただいたソラカフェの皆さま、ご参加のご家族に、あらためて御礼申し上げます。

株式会社脱炭素計画 代表取締役社長 渡部 貴志